



総会を終えて

（令和7年度の歩みとともに）

柳井市白壁の町並みを守る会会長

木阪 泰之

5月7日、今年度の定時総会を無事開催し、令和7年度の活動方針を皆さまと共有させていただきました。ご出席いただいた皆さま、そして日頃より私たちの活動を支えてくださっている地域の皆さまに、心より感謝申し上げます。

今年度のスローガンは「くるぞ、白壁！〜町並みSHOW・継（つなぐ）〜」。これは、町並みを単に「守る」だけでなく、「つなぎ」、「つむぎ」、「つづける」ことで、未来へと物語を重ねていこうという意思表示です。少子化や人口減少といった現実に向直しながらも、私たちは今できる一步一步を大切に、町並みに息づく暮らしの豊かさを守り育ててまいります。

第百参号

柳井市白壁の町並みを守る会
事務局（皿田治）
Tel. 090-1012-4204

地域行事や文化活動も引き続き力を入れて取り組んでまいります。七夕祭、八朔の船流し、おひなさま巡り、金魚ちようちん祭の出店協

力など、毎年の風物詩を、地域の皆さんと共に紡ぎ続けます。また、二〇一九年から続いております弘前市様との交流を、双方が無理をし過ぎないようにコツコツと深耕し続けたいと念じております。また、ナイトウォーク、蜘蛛の巣払いなど新たな試みにも挑戦しながら、町に「新しい風」を取り入れてまいります。

特に、今年度から始まった「シークレック トミュージアム yanai yamaguchi」は、



柳井市白壁の町並みを守る会総会

日常のなかに驚きと物語をそつとしのばせる、山口県の文化財磨き上げ事業の一環です。町並みに込められた見えない価値や記憶に目を向けること

で、訪れる人にとつても、暮らす人にとつても、自分の町の見え方が少し変わるかもしれません。こちらも肅々と拡げていけたらと考えております。

変化の波が大きい時代だからこそ、白壁の町並みは、人と人とのつながりや、地域のぬくもりを映す「暮らしの舞台」として、しなやかに、しっかりと根を張っていきたいと願っています。本年度も、どうぞよろしくお願いいたします。



恒例の七夕まつり実施!

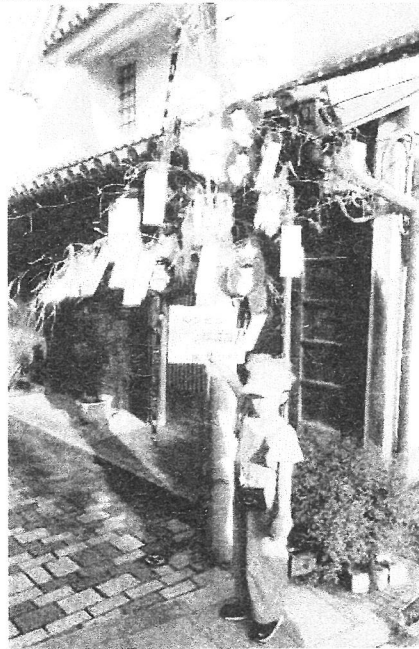
今年もやって来ました。今回で二十五回目となる白壁通りの伝統行事。竹の伐採場所を初めて石井ダム横の竹林に決定。前から狙っていたが所有者不明で断念していたところ都市計画課を通じて調べたらなんと市の所有林だった。灯台下暗しとはこのことか。ボランティアで集まってくれた皆さんのお蔭で長さ約二メートル二十本の竹を無事伐採。

七夕は神様の機嫌を損ねた織姫と彦星が天の川を隔てて離され、改心して真面目に働けば一年に一度だけ会える故事が起源となっており再会のうれし涙と別れの涙のため絶対に雨が降ると云われるが二年連続で期間中晴天に恵まれた。

集まったボランティアは男女総勢二十



名。以下に団体名を記し謝意を表したい。市役所生涯学習スポーツ推進課、同都市計画課、同商工観光課、柳井商工会議所、中央商店街振興組合、柳井縞の会、自遊倶楽部、山口銀行、東山口信用金庫、広島銀行



白壁の町並み蜘蛛の巣取り大作戦!

去る6月10日柳井中学校の生徒総会で、町並みを守る会のPRと「白壁の町並みの蜘蛛の巣取り作戦」の参加を募りに伺いました。

長さ7.5mの竹の先にハンディモップを装着したお手製の棒で蜘蛛の巣を払うという従来の方法をお伝えしつつ、「中学生の知恵と行動力で地域の課題を解決する」というテーマの

もと、自由に解決方法を考えてもらう企画です。

5人の参加申し込みを頂いて、6月30日にみんなで現地に集合して状況確認。実際の竹を持つてみて、その重さと軒下の高さを確認。掃除棒の操作の難しさに驚きながら、いろいろとアイデアを考えてくれています。打ち合わせをした後に、8月4日に作戦実行の予定。中学生の柔軟な思考力と行動力で、どんな方法でチャレンジするのか楽しみです。

大切な町屋の白壁を傷つけないように注意を払いながら、彼らの考えた作戦を実行します。8月4日の「蜘蛛の巣取り大作戦!」お楽しみに!



現地で作戦会議

作戦会議の後、みんなで火伏地蔵さんの前掛けの交換作業



柳井の地図絵図

岸田稔明

第四十六回 一万分一柳井町都市計画図
(昭和二十七年調査) その一 (柳井市蔵)

今回は、柳井市都市計画課に保存されている「柳井町都市計画図」を取り上げる。

この図は、昭和二十七年(一九五二年)に現地調査され、戦災復興及び経済再建のため貸与された昭和二十三年(一九四八年)年米軍空中写真並びに地理調査所(現国土地理院)の三角点を測量の基準として柳井町役場の責任のもとに作成されたもので、当時の柳井町全域を対象とする縮尺一万分の白図である。

この地図について、今後数回に分けて紹介していく予定であるが、今回は柳井駅周辺に焦点を当てる。

第三十七回において紹介した国土地理院蔵の昭和二(一九二七)年測図「陸地測量部二万五千分一地形図」(右下に一部を掲載)と比べると、柳井駅南側

が大きく開発され、線路が増設さ



れたことが分かる。

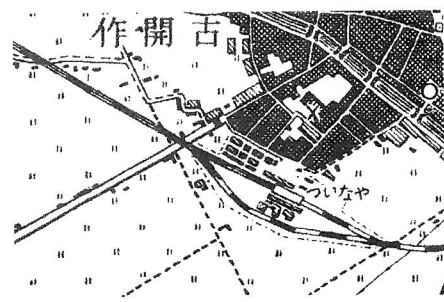
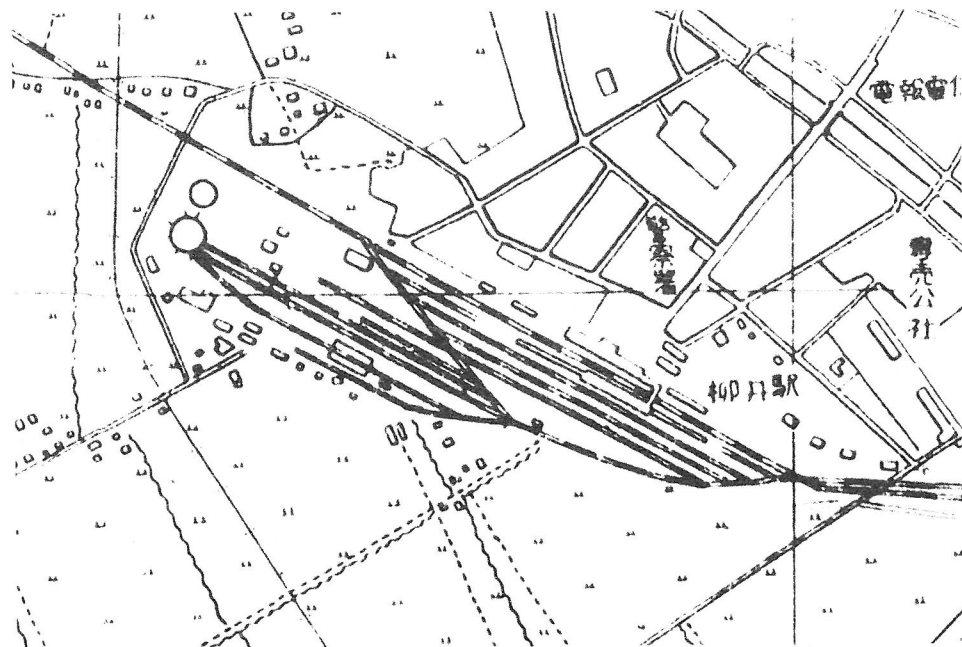
昭和十二(一九三七)年六月十六日、柳井町長小田周一と柳井商工会長佐村清一(いずれも当時)は、広島鉄道局へ連名で、機関車、列車の修理工場の建設を請願した。

請願書の要旨は、「広島鉄道局が建設位置を探索中の機関車、列車修理工場に関し、気候、交通、住宅、教育等すべてにおいて好適地である柳井線柳井駅接続南面の平坦地に工場を建設することを決定するよう請願する」とある。

請願理由として、「岩徳線が開通して山陽本線になり、海岸沿いは柳井線となったが、柳井港駅の整備、上水道の布設工事、都市計画区域指定等、柳井は発展の途上にある。柳井駅の南方は十五万坪の平坦地で、工場として好適地で、住宅の収容力は充分で、教育機関が駅に遠くない所に多数備わり、他に比較して優れている。この際本町の実情を調査の上、建設に関し希望がある際は充分に斡旋するので、かつて機関庫の所在した歴史に鑑み、かつ本町の進展開発のため、二万人の町民の熱意を御賢察を賜り、柳井駅南面平坦地へ工場の建設地に採択されることを懇願する」とある。

昭和十七(一九四二)年から、新庄との境付近にあった古開作共有地の土を使って用地の埋立工事が開始され、昭和十九(一九四四)年十月十一日、柳井線が複線化完成とともに再び山陽本線となり、同時に柳井機関区が設置された。道路は、機関区の設置に伴い、現ヤナイ園芸そばの東条踏切を経由するルートへ迂回することになった。

【左：柳井市都市計画図(昭和二十七年(一九五二年)現地調査、柳井市蔵)、下：陸地測量部二万五千分一地形図「柳井」(昭和二(一九二七)年測図、国土地理院蔵)】
※柳井駅南西側に線路が増設され、道路が大きく迂回している様子が分かる。



商都柳井の歴史その廿七

松島 幸夫

商人たちの心(十二)

天神祭を華やかに

前回は、柳井津の商人が天神社を柳井に勧請(神霊を招く)した様子を知って、商人たちの信仰心の一端を理解しました。天神社には商売繁盛を願う商人だけでなく、稲の豊作を願う農民も参詣に訪れました。稲作には水が絶対に必要です。時に日照りが続くと農民は、神に雨乞いの祈りを捧げました。その祈りを形に凝縮したものが、あります。しめ縄です。

神社に行くと、必ずしめ縄が張ってあります。また祭礼の日には、しめ縄が家並みの軒先に張り巡らされます。それらのしめ縄をよく見ると、上にはわらを編んだ綱が横向きに張ってあります。その綱からはよじった紙が垂らされています。またわらの束も垂らされています。それらは何を表しているのでしょうか。

実は、雲、雷、雨を表しているのです。



雷は雨を招くだけではありません。電荷を帯びた雷光が空気中を通り貫けると、窒素を雨の中に固定し、ア

ンモニアを田に降らせるのです。雷と雨が窒素肥料を稲田にもたらすのです。現代人は科学肥料を使いますが、雷が光るのを心待ちにしていました。江戸時代の農民は経験的に化学現象を理解していたのです。雷光をイナズマと呼び、漢字で「稲妻」と書くのは、雷と稲作の密接な関係を物語っているのです。

さて、しめ縄や雷光の話は長々と持ち出したのは、菅原神社への日本人の深い敬意を感じていただきたからです。平安時代に藤原貴族は雷光を道真の怨霊として恐れおののきましたが、農民たちは雷光を大歓迎し、菅原天神への信仰を深めたのです。

さて天神社の祭礼日には、御神行が催されます。道真の神霊が天神社を出発し、亀岡通り、白壁の町並みを貫けて、柳井川にかかる宝来橋を渡り、川土手に設置されている御旅所に移されます。天神様の御旅所は、代田八幡神の御旅所と兼用です。代田八幡宮の祭神も、道真の神霊も、白壁の町並みを通ります。祭礼の資金を提供する金屋や古市あたりの豪商家族が、店の前で神霊を拝みたいとの要求に応えたのです。併せて参拝者を誘導して、白壁の町並みの商売繁盛の一助にしているのです。



と、大名行列が花を添え

ますが、城下町でもない柳井でなぜに大名行列を行うのでしょうか。実は江戸時代の後期に、柳井から江戸へ出て日雇いの男に臨時収入の話が舞い込みました。大名行列にバイトで参加しないかとの誘いです。遠隔地の大名が大人数で移動するのは大金を要します。人数を減らして節約したく思いました。しかし少人数で江戸に入ったのでは、貧乏藩と嘲笑されます。多人数で堂々と江戸入りするため、品川宿で臨時雇いをしたのです。柳井出身の稼ぎ人は、臨時収入欲しさに、大名行列に加わりました。やがて柳井に帰郷し、酒場での雑談で、菅原天神社の御神行に大名行列を加える提案を受けました。柳井津の商人たちが提案を受け入れた。資金を出して、大名行列が加わりました。今でこそ衣装や道具がそろえられているので例年どおりにできますが、最初にはたいへんな資金が必要でした。



財を蓄えるだけでは守銭奴でしかありません。豪商として地域の皆さんから慕われ、店を繁盛させるには、篤き信仰心を持ち、ボランティア精神がなければなりません。柳井津の商人たちは経営能力にプラスして皆のために奉仕する心を大切にしていたのです。

資料館便り

『入館者・お鐘金魚エトセトラ』

山近絹代

令和六年度もお客様は北海道から沖縄まで、全国からお越しくださいました。

東北、北陸からは依然少なく、関東、関西、中国地方の方が多く、特に広島県、山口県内から、沢山の方が来られています。

海外からもSNSで知って来られる方もあり、以前よりも多くなっています。

長年、観光協会発表の来客数と当館の入館者数は比例していましたが、六年度はまるつきり違って資料館の入館者数が500人減に対して、観光協会は1.6倍増との発表でした。反比例は初めてです。何があったのでしょうか？

♡型のフォトスポットが好評です。

「金魚は幸運と富を招き、ハートでのダブルハッピーのフォトスポットです。私、シャッター押します隊です。」と声をかけると、すぐに写られる方もいれば、「年だから」と言われる方もおられます。そこは勧め上手の私の勢いに押され♡型の中に嬉しそうに座られ、「上手ですね。勧めてくれてありがとう」と言ってくれます。皆さんにハッピーになって欲しいのでこれからも声を掛け続けますよ。

金魚の折り紙コーナーは大人気で、子供から大人まで多くの方が折られます。幼稚園児から三世代にわたる方々、岩国基地の方、遠方から来られた方、皆さん楽しんでいかれます。

一番人気のお鐘金魚が資料館に設置されてもうすぐ十五年目を迎えます。今年は特に絶好調です。

お礼参りは近年一年間で40～50人位ですが、今年は六月末で48人と例年の倍のペースでお礼参りに来られています。

先月、大阪万博山口県ブースに行った時に、山口県大阪事務所の方からお鐘金魚の話が出て、ひとしきりお鐘金魚さんで盛り上がりしました。大阪でも話題に！「あっぱれお鐘金魚」

資料館に来られた方は「来て良かった。楽しかった。」と言って帰って行かれます。これからも益々ハッピーで楽しい場所になりますようにガンバリます！



【編集後記】

★シークレットミュージアムが柳井の町に誕生した。中身はすべてシークレットとのことなので、ここではご紹介できないが柳井市に古くから存在する魅力が新たに体験できるワクワク、ドキドキする試みではないか。木阪会長曰く。観光施設じゃない場所だからこそ見える、日常の延長線にある“特別な時間” なんかいいね～！

★暫くの間中断していた白壁通りの蜘蛛の巣取り。以前も中学生の協力を得て実施していたが、この度は当会の呼びかけに対して中学生たちが独自に工夫を加え実施するようだ。白壁通りには防犯を兼ね白壁の美しさを引き立てる照明用として何本も街灯が設置されている。その灯りに誘引されてたくさんの虫が飛んでくる。虫を待っているのは蜘蛛だ。その結果白壁は蜘蛛の巣に覆われることになる。蜘蛛の巣取りの復活を喜びたい。

(事務局 皿田)

令和7年度第1四半期 柳井市町並み資料館入館者数

	令和7年/4月～6月	令和7年6月現在累計
町並み資料館	4,510	346,722
	前年同期比 106.4%	
松島詩子記念館	1,314	119,899
	前年同期比 127.4%	